

第51回全日本美容技術選手権大会

競技要綱

と き 令和5年10月24日(火)

ところ 広島県立総合体育館(広島グリーンアリーナ)

全日本美容業生活衛生同業組合連合会

この大会についての一般的注意事項

1. この大会の目的と意義

全日本美容技術選手権大会は、いうまでもなく、全国から選ばれた技術者が、日頃の研鑽の成果を競い合うことであり、それだけにきわめて高度な資質と技量を示すものといえます。

これは全国の技術者の技能向上の指標となり、その目標達成への努力を通して、美容業界全体の技能水準の向上と営業の発展に大きく寄与すると共に、広く一般社会に業の存在をアピールする目的も併せて持っています。

2. 競技要綱

◇ヘアスタイル競技の部	P. 2
◇フリースタイルカット競技の部	P. 4
◇カット&ブロー競技の部	P. 6
◇花嫁化粧着付競技の部	P. 8
◇中振袖着付競技の部	P. 12
◇ネイルアート競技の部	P. 16
◇洋装ブライダル競技の部	P. 18

3. 競技の実施

ヘアスタイル競技・フリースタイルカット競技・カット&ブロー競技・花嫁化粧着付競技・中振袖着付競技・洋装ブライダル競技は、開催担当（広島県）の出場選手の登録申込期限（令和5年7月25日）時点で、出場選手の登録申込者数が10名未満の場合、競技を実施しないことがある。

4. 各競技共通事項

(1) 審査事項

大会運営規則第7条第1項及び第2項に基づき委嘱された審査委員が、同条第3項により定められた「専門委員職務要項」に基づき、審査業務を行う。

(2) 監視事項

大会運営規則第7条第1項及び第2項に基づき委嘱された監視委員が、同条第3項により定められた「専門委員職務要項」に基づき、監視業務を行う。

(3) 採点の精算

大会運営規則第7条第3項に定められた「専門委員職務要項」に記載する。

(4) 表彰

入賞者の数については、出場選手の数に応じて連合会理事長が決定する。

◇ヘアスタイル競技の部

(1) クリエイティブ・ファッション

この課題は、ブローテクニックを最大限に活用して、感性に富んだ独自の創造性、ファッション性、芸術性が表現され、進歩的なヘアスタイルを制作するものである。

※ 本競技はモデルウィッグを使用して行う。

(2) 競技時間 30分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

- ① 競技は連合会が指定するモデルウィッグを使用して行う。
- ② 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの(色、柄は禁止)、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。(ミニスカートは禁止する。)靴は、ヒールの低いものとする。
- ③ 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
- ④ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑤ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑥ モデルウィッグの髪は、事前にスタイリング(形付けのためのブロー及び整髪料、カーラー、ピン類がついている。)がされてはならない。
モデルウィッグの髪は控室で監視委員長が厳重に点検し、スタイリングがされているものは減点とし、監視委員長が完全に濡らす。
- ⑦ モデルウィッグの髪は、競技ステージで完全に濡らし、オールバックにシェープした状態から始めなければならない。
- ⑧ 万力は、競技中机の指定された側に固定しておかなければならない。(万力は選手が持参し、目印等をつけてはならない。)
- ⑨ 万力に挟むタオルは、開催担当美容組合から提供されるタオルを使用しなければならない。
- ⑩ 競技終了後、作品にピンを残してはならない。
- ⑪ 競技終了後、選手はモデルウィッグに一切触れてはならない。
- ⑫ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑬ 審査中、モデルウィッグは固定された万力の上に置き、指示された方向に向けなければならない。
- ⑭ 編み込み・まとめ髪は禁止する。
- ⑮ “ネオン”カラー(蛍光をともなった色)を除き、カラーの選定は自由である。
- ⑯ カラープレーは禁止する。(ラメ入りも禁止する。)
- ⑰ ヘアピース、ウィッグ、ヘアアクセサリは禁止する。
- ⑱ イヤリング、ピアス類は使用可能であるが、競技時間内(30分)につけなければならない。(イヤリング、ピアス類は耳につけ、ヘアラインより上に上ってはならず、モデルウィッグの台座より下がってはならない。)

- ⑱ メイクは自由とする。ただし、タトゥー（絵）等は禁止する。
- ⑳ モデルウィッグに洋服は取り付けてはならない。（首にスカーフを巻くことも禁止する。）
- ㉑ モデルウィッグへの印、ピン打ち等は禁止する。イヤリング、ピアス類を留めるためのピンは耳以外に使用してはならない。
- ㉒ 競技時間内に使用する整髪料は自由とする。
- ㉓ 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、はさみ等の用具を収納する部分の確実な消毒が難しいと考えられるもの（革製のケース）の使用は禁止する。
- ㉔ 電源は1人1.3kWまでとし、コンセントは1口用である。（2口用コンセントは禁止する。）
- ㉕ 控室で電源の使用は禁止する。

[注] モデルウィッグ、ドライヤー等の消費電力（メーカー表記で確認）は、控室で、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

◇フリースタイルカット競技の部

(1) トレンドスタイル

この課題は、必ずカールパーマ（ストレートパーマは禁止）、カラーリングを事前に施したモデルに対し、カット及びブローによりトレンドヘアスタイルを制作するもので、審査は全体的なトータルバランスで行うものとする。ヘアスタイル制作にあたって、作品に独自の創造性、発信性、ファッション性が表現されるものとする。

仕上がりは芸術的であったり、凝り過ぎていてはならない。カラーの選定は自由とする。

(2) 競技時間 40分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの（色、柄は禁止）、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。（ミニスカートは禁止する。）靴は、ヒールの低いものとする。
- ② 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ③ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑤ モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ⑥ モデルの髪は、事前にスタイリング（形付けのためのブロー及び整髪料、カーラー、ピン類がついている。）がされてはならない。
モデルの髪は控室で監視委員長が厳重に点検し、スタイリングがされているものは減点とし、監視委員長が完全に濡らす。
- ⑦ モデルの髪は、競技ステージで完全に濡らし、オールバックにシェープした状態から始めなければならない。
- ⑧ カットは、全頭3cm以上カットしなければならない。（事前点検時に撮影し、競技終了後、監視委員が確認する。）
- ⑨ ヘアスタイルの制作にあたって、モデルは選手の手助けをしてはならない。
- ⑩ モデルのケープは、競技時間内（40分）に取らなければならない。
- ⑪ 競技終了後、作品にピンを残してはならない。
- ⑫ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑬ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑭ 審査中、モデルは手に何も持ってはならない。
- ⑮ 審査中、モデルは指示された方向を向き、座ってポーズをとり、審査時間の1/3が過ぎた時点で、立ってポーズをとらなければならない。（審査時間は選手数により変動する。）
- ⑯ ヘアピース、ウィッグ、つけ毛（ヘアエクステンション）、ヘアアクセサリは禁止する。
- ⑰ イヤリング、ピアス、ネックレス類は使用可能であるが、競技時間内（40分）に選手がつけなければならない。

- ⑱ 編み込み・まとめ髪は禁止する。
- ⑲ カラースプレーは禁止する。(ラメ入りも禁止する。)
- ⑳ メイクは自由とし、事前に施すものとする。ただし、タトゥー(絵)及びアートメイク等は禁止する。
- ㉑ 競技時間内に使用する整髪料は自由とする。
- ㉒ 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、はさみ等の用具を収納する部分の確実な消毒が難しいと考えられるもの(革製等のケース)の使用は禁止する。
- ㉓ 電源は1人1.3kWまでとし、コンセントは1口用である。(2口用コンセントは禁止する。)
- ㉔ 控室で電源の使用は禁止する。

[注] モデル、ドライヤー等の消費電力(メーカー表記で確認)は、控室で、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

◇カット&ブロー競技の部

(1) モードスタイル

この課題は、モードスタイルを制作するものである。ヘアスタイル制作にあたっては、作品に独自の創造性、ファッション性が表現されるものとする。

※ 本競技はモデルウィッグを使用して行う。

(2) 競技時間 ・ ・ ・ ・ ・ 40分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

- ① 競技は連合会が指定するモデルウィッグを使用して行う。
- ② 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの（色、柄は禁止）、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。（ミニスカートは禁止する。）靴は、ヒールの低いものとする。
- ③ 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
- ④ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑤ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑥ モデルウィッグの髪は、事前にスタイリング（形付けのためのブロー及び整髪料、カーラー、ピン類がついている。）がされてはならない。
モデルウィッグの髪は控室で監視委員長が厳重に点検し、スタイリングがされているものは減点とし、監視委員長が完全に濡らす。
- ⑦ モデルウィッグの髪は、競技ステージで完全に濡らし、オールバックにシェープした状態から始めなければならない。
- ⑧ 万力は、競技中機の指定された側に固定しておかなければならない。（万力は選手が持参し、目印等をつけてはならない。）
- ⑨ 万力に挟むタオルは、開催担当美容組合から提供されるタオルを使用しなければならない。
- ⑩ 競技終了後、作品にピンを残してはならない。
- ⑪ 競技終了後、選手はモデルウィッグに一切触れてはならない。
- ⑫ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑬ 審査中、モデルウィッグは固定された万力の上に置き、指示された方向に向けなければならない。
- ⑭ 事前カットは一切認めない。
- ⑮ “ネオン”カラー（蛍光をともなった色）を除き、カラーの選定は自由である。
- ⑯ カラーズプレーは禁止する。（ラメ入りも禁止する。）
- ⑰ モデルウィッグへのパーマ、メイクは自由とする。ただし、タトゥー（絵）等は禁止する。
- ⑱ ヘアピース、ウィッグ、ヘアアクセサリは禁止する。

- ⑱ イヤリング、ピアス類は使用可能であるが、競技時間内（40分）につけなければならない。（イヤリング、ピアス類は耳につけ、ヘムラインより上がってはならず、モデルウィッグの台座より下がってはならない。）
- ⑳ モデルウィッグに洋服は取り付けてはならない。（首にスカーフを巻くことも禁止する。）
- ㉑ モデルウィッグへの印、ピン打ち等は禁止する。イヤリング、ピアス類を留めるためのピンは耳以外に使用してはならない。
- ㉒ 競技時間内に使用する整髪料は自由とする。
- ㉓ 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、はさみ等の用具を収納する部分の確実な消毒が難しいと考えられるもの（革製のケース）の使用は禁止する。
- ㉔ 電源は1人1.3kWまでとし、コンセントは1口用である。（2口用コンセントは禁止する。）
- ㉕ 控室で電源の使用は禁止する。

[注] モデルウィッグ、ドライヤー等の消費電力（メーカー表記で確認）は、控室で、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

◇花嫁化粧着付競技の部

(1) 掛下文庫着付 (お引きずり)

通常、結婚式で用いられるもの。

競技は、「化粧、かつら装着、ボディ補整、長襦袢着付」までの作業と「掛下着付、帯結び」の作業に分けて行い、上品で格調高く花嫁らしい作品を作るものとする。

長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室で行い、「掛下着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。

長襦袢及び掛下の衿とじは、事前に済ませて来るものとする。(長襦袢の衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可)

(2) 競技時間

長襦袢着付までの作業 控室にて作業・・・・・・・・・・80分

掛下着付、帯結びの作業 競技ステージにて作業・・・20分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項 (違反した場合は、減点もしくは失格となる。)

[禁止事項]

- ① 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ② 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ④ 帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。(抱え帯を含む)
- ⑤ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑥ 着物及び長襦袢のふり合わせは、とじてあってはならない。
- ⑦ 帯あげは縫ってあってはならない。
- ⑧ 文庫の形付けのための芯は認めない。
- ⑨ かつらの下地作り、あるいはかつらに、くし・こうがいなどを取り付けておくことは認めない。
- ⑩ 極端に完成されたボディ補整用具の使用は認めない。
- ⑪ ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはならない。
- ⑫ 肌着の下にブラジャー等(和装用を含む)の使用は認めない。
- ⑬ 袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑭ ものさし類の使用は認めない。
- ⑮ モデルは競技開始前に、えり・顔に化粧、パック(コットンパックを含む)がしてあってはならない。
- ⑯ モデルは競技中はもとより、控室等にあっても化粧施術を禁止する。(アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内(80分)につけること。)

- ⑰ モデルが、ひも・伊達巻き・帯あげなどを結ぶことは認めない。(ただし、ひも・伊達巻き・帯あげなどを腕にかけたり、手に持つことはさしつかえない。)
- ⑱ モデルが、袖・衿元・裾などを修正することは認めない。(ただし、たもとを持ち上げること及び衿合せを押さえることはさしつかえない。)
- ⑲ モデルが、かつら装着を手伝うことは認めない。(ただし、ネットやハチマキを押さえることはさしつかえない。)
- ⑳ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ㉑ 助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)

〔制限事項〕

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの(色、柄は禁止)、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。(ミニ丈は禁止する。)靴は、ヒールの低いものとする。(ブーツは不可)
- ② 帯結びの型については、掛下文庫とする。
- ③ 裾合わせは中心から左右均等に開くこと。
- ④ 帯あげは中央で結ぶ型とする。
- ⑤ 長襦袢及び掛下の衿とじは、事前に済ませて来るものとする。(長襦袢の衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可)

〔衣裳類持込みに際しての禁止事項〕

- (a) 掛 下
 - ① 比翼(裾)は、つけてある所から、裾ふきまで一切表布にとじてあってはならない。
 - ② 立て袂の比翼は、胴裏につけてある所から衽つけで表布にとじてあってはならない。
 - ③ 芯を入れるなどの加工をしてはならない。
 - ④ 袖付にあて布があってはならない。
- (b) 長 襦 袢
 - ① 衿は白無地とする。
 - ② 上下セパレートのもの認めない。
 - ③ 巡礼衿は認めない。
 - ④ 後衿の力布は、あってはならない。(衿抜き用の細ひもは可)
- (c) 帯と抱え帯
 - ① 特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。
- (d) 着付小物
 - ① 肌着、裾よけ、帯枕は特別に考案・加工された、特殊な型式のものは認めない。

〔注〕競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

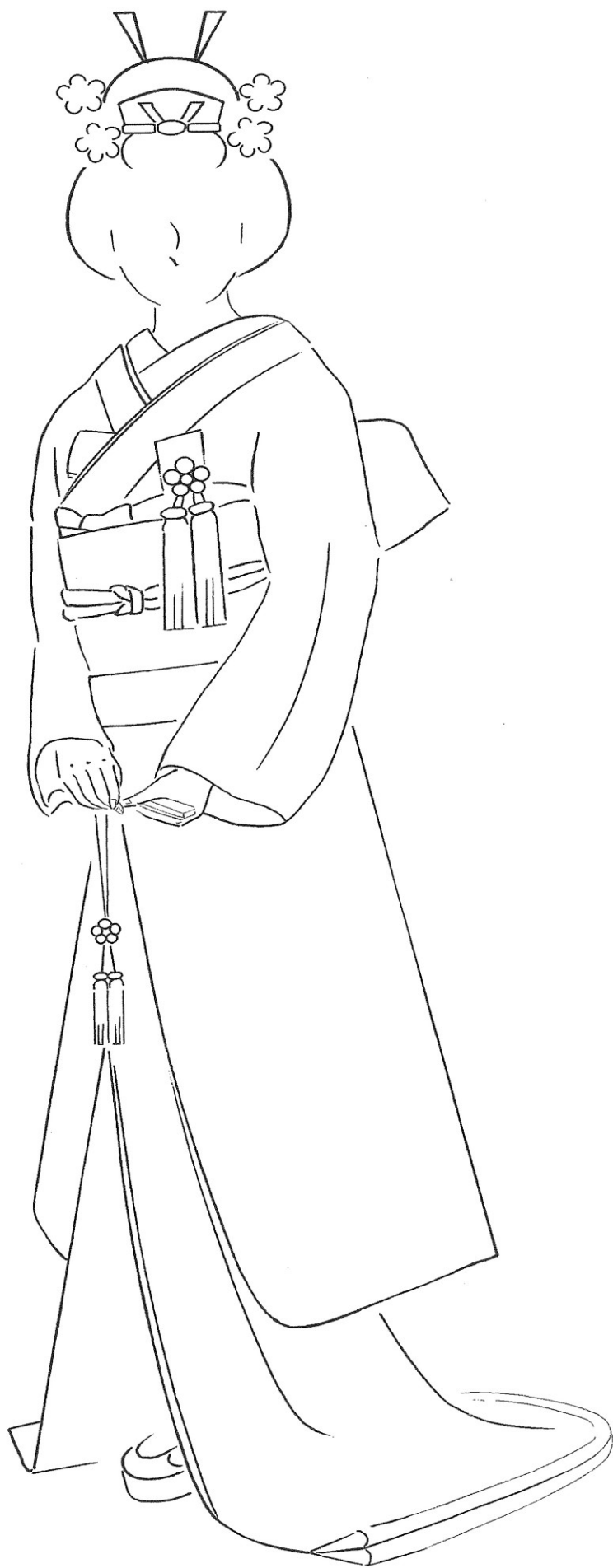
(4) その他の注意事項

- ① 帯結びに使用するひもは、腰ひも又は何重のゴム仮ひもでもよい。
- ② アイロンは使用できない。

- ③ 控室で電源の使用は禁止する。
- ④ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑤ 審査はモデルが草履を履いた状態で行う。
- ⑥ 審査中のモデルのポーズは図のとおりとする。〔資料図参照〕
- ⑦ 裾（後ろ）は、自然と引いた形とする。〔資料図参照〕
- ⑧ 競技時間内に出来ていないもの（クリップの取り忘れ、草履を履かせてないもの等）は未完成とし、審査は行わない。
- ⑨ 審査終了後、選手は再入場し、つまどりをして退場する。（つまどりは、審査の対象とはならない。）

(5) 競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) ① 掛下（事前に衿とじを済ませたもの） ② 掛下帯 ③ 長襦袢（事前に衿とじを済ませたもの。衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可） ④ 帯じめ ⑤ 帯あげ ⑥ 抱え帯 ⑦ 懐剣 ⑧ はこせこ ⑨ 草履 ⑩ 扇子（白骨で扇面は金、銀のもの）
 - ※ ①～⑨の用具の色は白とする。
 - ⑪ 衣装敷（紙） ⑫ 衣装箱（赤色で高さ18cm位の一般的に使用されているもの）
- (b) ① かつら（文金高島田） ② こうがい（べっこうでパール、サンゴ、ラインストーン等の付いていないもの、前挿しと後挿しは揃いのもので、片挿しは不可） ③ 前櫛（特殊な加工がされていない櫛型で、前髪に挿すこと。補助櫛が付いたものは不可）
 - ※ 角かくしは不要。
 - ※ こうがいをつける時、特殊な用具（こうがい用マジック等）の使用は禁止する。
- (c) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、仮ひも、伊達巻き（2本）、ボディ補整用具（綿花、タオル、さらし又はガーゼ）、帯枕、帯板、クリップ」
- (d) 化粧用具一式（鏡は40cm×30cm以内の物とし、台に乗せてはならない。）
- (e) 裁縫用具一式



◇中振袖着付競技の部

(1) 中振袖着付

通常成人式るとき用いられるもので、袋帯（六通または全通）を使用したもの。

競技は、「衿とじ」の作業及び「化粧、ヘアスタイル作り、ボディ補整、長襦袢着付」までの作業と「振袖着付、帯結び」の作業に分けて行う。

長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室で行い、「振袖着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。

(2) 競技時間

衿とじの作業	控室にて作業・・・・・・・・・・	25分
長襦袢着付までの作業	控室にて作業・・・・・・・・・・	80分
振袖着付、帯結びの作業	競技ステージにて作業・・・・・・・・	20分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

〔禁止事項〕

- ① 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ② 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ④ 長襦袢及び振袖の衿とじ、重ね衿、伊達衿付けを事前に行うことは認めない。（ただし、長襦袢及び振袖の衿とじは、大会当日の朝、競技前に監視委員立会いの下で、長襦袢着付までの作業時間80分とは別に25分間で行う。その後、作業しやすいようにたたみ直すこと。）
- ⑤ 帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。
- ⑥ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑦ 着物及び長襦袢のふり合わせは、とじてあってはならない。
- ⑧ 帯あげは縫ってあってはならない。
- ⑨ 極端に完成されたボディ補整用具の使用は認めない。
- ⑩ ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはならない。
- ⑪ 肌着の下にブラジャー等（和装用を含む）の使用は認めない。
- ⑫ 帯のアクセサリは認めない。
- ⑬ かつらの使用は認めない。
- ⑭ おはしより芯の使用は認めない。
- ⑮ 袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑯ ものさし類の使用は認めない。
- ⑰ モデルは競技開始前に、えり・顔に化粧、パック（コットンパックを含む）がしてあってはならない。

- ⑱ モデルは競技中はもとより、控室等にあっても化粧施術を禁止する。(アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が競技時間内(80分)につけること。)
- ⑲ モデルが、ひも・伊達巻き・帯あげなどを結ぶことは認めない。(ただし、ひも・伊達巻き・帯あげなどを腕にかけたり、手に持つことはさしつかえない。)
- ⑳ モデルが、袖・衿元・裾などを修正することは認めない。(ただし、たもとを持ち上げること及び衿合せを押さえることはさしつかえない。)
- ㉑ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ㉒ 助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)

〔制限事項〕

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの(色、柄は禁止)、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。(ミニ丈は禁止する。)靴は、ヒールの低いものとする。(ブーツは不可)
- ② 着物の色は、黒又はそれに近い色は禁止とする。
- ③ 着物の袖付の長さは18cm以上とする。
- ④ 帯結びの型については、全日本美容講師会TMモード(第107回:令和4年8月30日「碧天(へきてん)」「輝輝(きき)」、第106回:令和3年7月26日「奏海(かなた)」「流麗(りゅうれい)」)で発表された帯結びの中から選ぶこと。(アレンジは不可)
- ⑤ 帯あげは、入りの字型とする。
- ⑥ 帯じめは、中心で結ぶこと。
- ⑦ トータルバランスを考えて過剰にならない範囲で、ヘアピース、ヘアアクセサリーの使用は良い。ただし、ヘアピースについては事前に形付けしていないもの(ストレート又はローラーに巻いたもの)で個数は1個とし、頭部(出来上り)の1/3以上を覆ってはならない。また、ヘアアクセサリーはヘアスタイル(出来上り)の1/3以上を覆ってはならない。
- ⑧ 前身頃の衿の縫目と「おはしより」の縫目はそろえること。

〔準備事項〕

- ① オリジナルセットは事前に作り、ヘアのドライングが完了されている状態で会場入りすること。アミカーラー等ははずしても良いが、ブロックにまとめて留めることは認めない。(ダウンスタイルにしておくこと。)

〔衣裳類持込みに際しての禁止事項〕

- (a) 中振袖
 - ① 身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 - ② 芯を入れるなどの加工をしてはならない。
 - ③ 袖付にあて布があってはならない。
 - ④ 重ね衿、伊達衿は着物に付けてあってはならない。

- (b) 長襦袢 ① 衿は、三河芯に半衿を付けたもの以外は認めない。その他、特別に考案・加工された、特殊な型式のものも認めない。
② 半衿は白無地とする。
③ 上下セパレートのものとは認めない。
④ 巡礼衿は認めない。
⑤ 後衿の力布は、あってはならない。（衿抜き用の細ひもは可）
- (c) 帯 ① 特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。
- (d) 着付小物 ① コーリンベルトの使用は認めない。

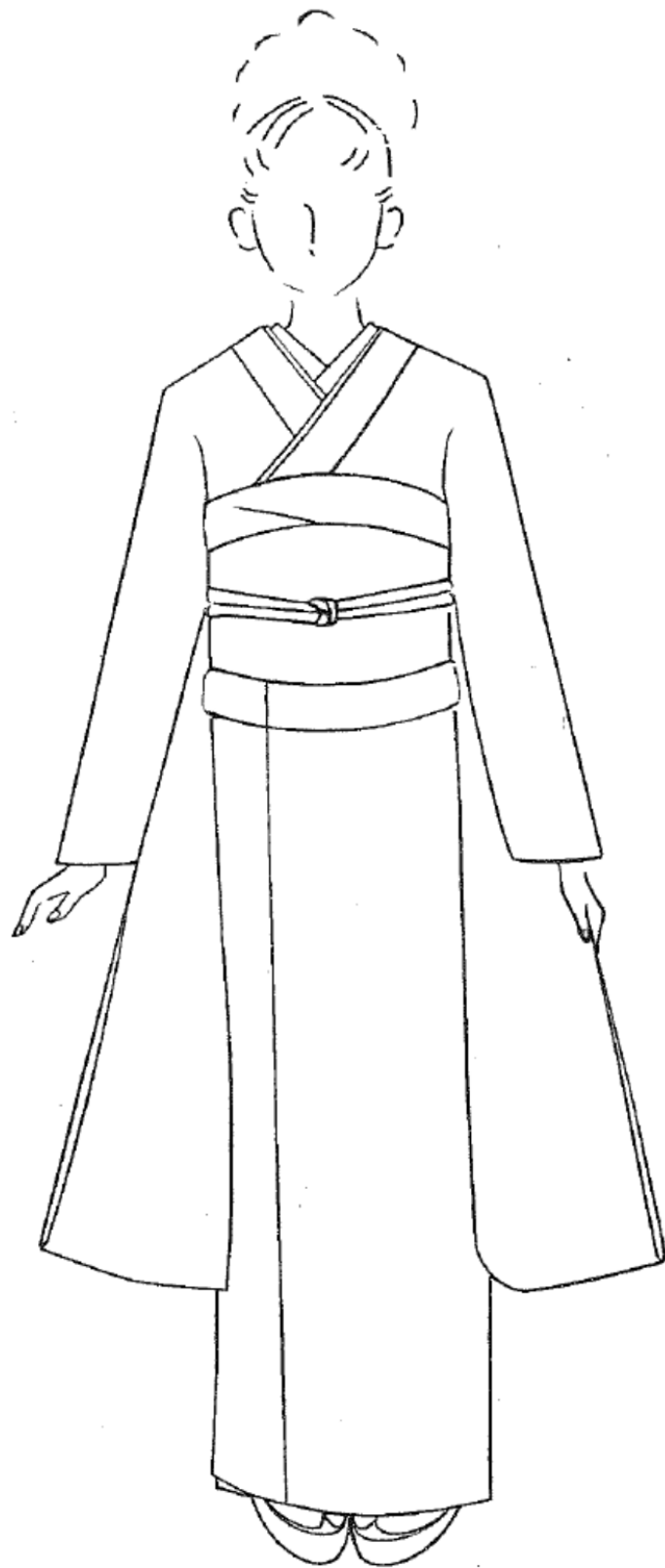
[注] 競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

(4) その他の注意事項

- ① アイロンは使用できない。
② 控室で電源の使用は禁止する。
③ 競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
④ 審査はモデルが草履を履いた状態で行う。
⑤ 審査中のモデルのポーズは図のとおりとする。〔資料図参照〕
⑥ 競技時間内に出来ていないもの（クリップの取り忘れ、草履を履かせていないもの等）は未完成とし、審査は行わない。

(5) 競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) ① 中振袖 ② 重ね衿又は伊達衿 ③ 袋帯（六通または全通）
④ 長襦袢（長襦袢の衿は三河芯にして、三河芯幅に半衿を付けたもの）
⑤ 帯じめ ⑥ 帯あげ ⑦ 草履
⑧ 衣装敷（紙） ⑨ 衣装箱（赤色で高さ18cm位の一般的に使用されているもの）
- (b) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、ゴム仮ひも（寿仮ひも可）、伊達巻き（2本）、ボディ補整用具（綿花、タオル、さらし又はガーゼ）、帯枕、帯板、カラーバンド又は輪ゴム、クリップ類、衿芯（長襦袢及び着物の衿用として和紙（半紙、障子紙、奉書紙）を使用のこと。ただし折ってあってはならない。）」
- (c) ヘア用具一式
- (d) 化粧用具一式（鏡は40cm×30cm以内の物とし、台に乗せてはならない。）
- (e) 裁縫用具一式



◇ネイルアート競技の部

(1) ネイルアート

この課題は、テーマに沿ってネイルチップに細やかで品性を保ち、感性に富んだ独自の創造性、芸術性のある作品を制作するものである。

作品（ネイルチップ）は事前に提出し、審査を行う。（未発表作品に限る。）

<テーマ>

「Color of life（カラー オブ ライフ）」

(2) 作品の提出等

- ① 作品は選手1名につき1個とし、各美容組合からの申込数は3名までとする。
- ② 申込選手は、大会の参観は自由とする。（大会の参観は義務付けではありません。参観する場合は、所属組合を通じて入場整理券を購入してください。）
- ③ 選手申込(申込期限〇月〇日)後、連合会より所属組合を通じて提出用 BOX を送付(8月4日頃)する。
*提出用 BOX の大きさ [縦:約5.3cm×横:約15cm×高さ:約1.2cm]
- ④ 提出用 BOX に作品を入れて、所属組合を通じて連合会へ送付(9月8日必着)する。
- ⑤ 連合会にて審査を行う。
- ⑥ 入賞者(順位は大会で発表)全員に連絡し、大会(表彰式)への出欠を確認する。
(出席する場合の入場整理券、交通費、宿泊費等は選手負担。)
- ⑦ 大会会場に全作品を展示し、表彰式で結果発表する。(上位3名について、本人欠席の場合は所属組合理事長が対応する。)
- ⑧ 大会終了後、所属組合を通じて作品を返却する。

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

- ① ネイルチップは、提出用 BOX に両面テープ等で外れないように固定し、期日までに所属組合を通じて連合会に送付しなければならない。
(送付時にチップが外れないように固定すること。外れた場合や BOX の破損はそのままの状態での審査となる。審査はフタをした状態で行うので、フタは固定すること。)
- ② BOX 裏側に所属組合、選手名、作品の上下を明記すること。
- ③ BOX、台紙への装飾は禁止する。(既存の台紙は抜かず、台紙を上重ねることは可とする。台紙は無地単色とし、単色であれば塗装も可とする。グラデーションは不可。)
- ④ 10枚のネイルチップに絵の具を使用してフラットアートを施す。(形はスクエアオフ、長さは BOX に納まる長さとする。)
- ⑤ 著作権、肖像権等を侵害する作品(キャラクター等)は禁止する。
ストーン、ブリオン、ラメ、ホログラムの使用は可とする。
(個数制限はないが、原則としてフラットアートをメインとする。)
- ⑥ 仕上げはトップコートまでとする。
- ⑦ 使用を禁止するもの
3D、エンボス、ピアス、テープ、シール、エアブラシ、ウォーターマーブル

(4) 審査基準

テーマに沿った作品であり、細やかで品性を保ったデザインで、感性に富んだ独自の創造性、芸術性が表現されているかについて審査を行う。

－審査項目－

- ① テーマに沿った表現
- ② カラーハーモニー
- ③ オリジナリティ
- ④ 仕上がり・完成度

◇洋装ブライダル競技の部

(1) ヘアメイク、ウェディング・ドレスフィッティング

この競技は、「サロンワークを駆使して、ブライダル現場で生きる上品で若々しいイメージの洋装花嫁をつくる」をコンセプトとし、ドレスの色（ドレスに付けられたアクセサリを含む）は挙式に相応しい範囲の白（ホワイト、オフホワイト、クリームは可、シルバー、ゴールドは不可）、ヘアスタイルはコンセプトに基づいたアップスタイルとする。

競技は、「メイク、ドレスフィッティング」の作業を監視委員立会いの下に控室で行い、「メイク、ヘアの仕上げ」の作業は競技ステージで行う。

* 「メイク」の控室、競技ステージにおける作業配分は自由とする。

* モデルはいわゆるプロモデルではなく、美容師、大学生、専門学校生、会社員等とし、大会当日、美容師免許証、学生証、社員証（写しでも可）を提示させる。

(2) 競技時間

メイク	控室にて作業	・・・・・・・・	30分
ドレスフィッティング	控室にて作業	・・・・・・・・	10分
メイク ヘアの仕上げ	}	競技ステージにて作業	・・・・・・・・ 30分

(3) 競技に関する制限及び禁止事項（違反した場合は、減点もしくは失格となる。）

- ① 選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は衿付で白いもの（色、柄は禁止）、下は黒又は濃紺のスカート又はスラックスとする。（ミニスカートは禁止する。）靴は、ヒールの低いものとする。
- ② 競技中、選手同士又はモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ③ 競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑤ モデルは競技開始前に、デコルテ、顔に化粧、パック（コットンパックを含む）がしてあってはならない。
- ⑥ モデルは競技中はもとより、控室等にあっても化粧施術を禁止する。（アイテープ、つけまつ毛を使用する場合は、選手が決められたメイクの競技時間内（控室及び競技ステージ）でつけること。）
- ⑦ モデルのタトゥー（絵）及びアートメイクは禁止する。
- ⑧ モデルは、開催担当美容組合から提供されるケープを着用しなければならない。
- ⑨ モデルは競技中及び、控室等で選手の手助けをしてはならない。
- ⑩ イヤリング、ピアス、ネックレス類は、事前につけてあってもかまわない。（ただし、競技ステージでつける場合は、競技時間内（30分）でつけなければならない。）

- ⑪ ベール、ブーケ、手袋は禁止する。
- ⑫ モデルの髪は、控室内でブロッキングしていないダウンスタイルにして競技ステージに入り、その状態から始めなければならない。
- ⑬ ヘアピースの使用は禁止する。
- ⑭ ヘアアクセサリー及びティアラをつける場合は、競技ステージで競技時間内（30分）につけなければならない。
- ⑮ “ネオン”カラーを除き、カラーの選定は自由である。ただし、極端なものではなく、営業の範囲にとどまるものでなければならない。
- ⑯ ドレスのトレーンは、競技スペース（約2m×2m）から出てはならない。〔資料図参照〕
- ⑰ モデルのケープは、「メイク、ヘアの仕上げ」の競技時間内（30分）で取らなければならない。
- ⑱ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑲ 審査中、モデルは指示された方向を向き、座ってポーズをとらなければならない。〔資料図参照〕
- ⑳ 助手の使用は一切認めない。（ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従い助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。）

（4）その他の注意事項

- ① モデルの髪に必要な事前準備（オリジナルセット等）を済ませ会場入りしなくてはならない。
- ② 競技に必要なすべての用具の使用を認める。ただし、はさみ等の用具を収納する部分の確実な消毒が難しいと考えられるもの（革製等のケース）の使用は禁止する。
- ③ 控室及び競技ステージで電源の使用は禁止する。
- ④ 控室での用具（敷物を含む）は、隣の選手の邪魔とならないよう、自分のスペース内できちんと整理されていなければならない。（控室には机とイスが用意される。）
- ⑤ 競技ステージで使用する用具は、全てケースに入れてモデルのひざの上に置かなければならない。（競技ステージには机は無くイスのみが用意される。）

（5）競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) ウェディング・ドレス一式 (b) ヘア用具一式 (c) 化粧用具一式
- (d) 卓上鏡 (e) 必要な小物類 (f) 敷物（控室でドレス着用時に床に敷く物）
- (g) ケース（競技ステージで使用する用具を入れるもの）

審査時のポーズ（椅子に座った状態）

